

保育計画成果報告書

法 人 名	社会福祉法人菊清会
施 設 名	オアシスみくり保育園
報 告 者（役 職）	田中 眞里子（園長）
住 所 ・ 連 絡 先	神奈川県相模原市緑区大山 1 - 4 1
	☎ 042-703-1787
	E-mail info@oasis-hoikuen.com

○タイトル（保育計画）

体と心を育てるサーキット遊び

○主な助成備品

巧技台・マット・メッシュトンネル・フワフワマット・ジョイントバランサー・太鼓橋 年少用跳び箱

1、保育計画策定の目的

平成 27 年 4 月に小規模保育園として、タワーマンションの 1 階に開園しました。

児童は 0・1・2 歳児 16 名で一日の大半を小さな保育室で過ごすことが多くなり、園庭遊びでもタワーマンションの一角という制約もあり、身体を十分に使って遊ぶことが難しい環境です。そんな条件のもとで、運動機能の基本的な発達を保障することができる環境、身体を使った遊びをひとり一人が十分に満足する環境を用意することを考え、今回の運動用具購入に至りました。

乳児の発達は、保育者との信頼関係のもと情緒的な絆を深めることにより環境に働きかける意欲が高まることを考慮し、人と関わりながら様々な運動機能の獲得とともに主体性を育み、意図を持って行動すること、自律心を育てることを目的にしました。

2、具体的な実施内容

「異年齢でのサーキット遊び」

⇒「見て・真似て・やってみようとする」

サーキット遊び>>>同じ経験でも発達の違いを考慮し、2 パターンの運動遊びを設定
実施計画>>>週案の中、午前中は週に 1 回以上

長時間保育に変化をつけるよう夕方にも子どもの様子で運動遊具を設定
設定>>>運動遊びのスペースの他ゆったりとくつろげるスペースを作り、個々の様子での参加ができるようにする。

配慮>>>遊具の破損確認

個々の発達過程に合わせた運動遊びができるよう設定し援助する。

週の振り返りの中、設定に対しての子ども様子など伝え合い、改善する。

サーキットを行ってみた所、まだ小さな子ども達は個々が興味を持った所に行き遊び、自分ができる方法で運動遊びを楽しむ姿がありました。そのため、個々のできる方法「やってみたい」気持ちを大切に、運動用具を設定し個々の運動能力に配慮して援助を行うようにしました。

子どもは興味のある所に行き一生懸命やろうとしますが、回を重ねることで、楽しいと思ったことは、何回も繰り返し挑戦し楽しんだり、出来るようになったりする姿が見られました。また2歳児さんは、繰り返す中で、順番を理解し待つこと、友だちがやるのを見て楽しむ姿も見られ、成長を感じる機会となりました。



順番が分かり、サーキット遊びを楽しむ



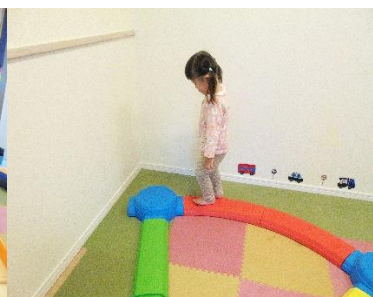
2歳児を見て、挑戦する1歳児



小さな園庭にある唯一の遊具「太鼓橋」



お友達と一緒にできて「楽しいね」



「いつもの環境にある運動遊具」

常にいくつかの遊びコーナーを設定し、季節や子ども達の成長に合わせて環境を変えています。コーナーにはゆったり遊べるスペース・体を動かせるスペース・手指遊びなど、子どもの興味を引きだし、子ども同士の関わりの中で遊びを楽しめるように考えています。運動用具を購入できたことで、身体を動かせる環境が充実したことは子ども達の遊びの幅を広げました。特に腕・足の力を使いよじ登る経験や高い所から飛び降りる経験は、いつも保育室内にあるものとして、友だちがやる姿を見、それに関心を持ち、やってみる行為につながっていると思います。



「一緒にとぼうか」 1・2歳児



みんなでできたー

3、成果と評価

運動用具の充実は、子ども達の遊びの幅を広げ、沢山の経験に繋がりました。

想定していたサーキットは子どもの姿を見ながら、観点を変更し実施。運動用具を有意義に利用することと共に子どもの自発性を大切にした環境設定はどうしたらいいのかと職員全体で考える機会となりました。

開園して間もなく、経験が少ない職員が、運動遊びを考え実施・振り返る中、いつもの環境のひとつに運動用具を取り入れたことは、いい効果を生みました。



よじ登り、窓の外を見たり・フワフワマットがあるから安心して飛び下りる子ども達です



フワフワマットでゆったりくつろぐ子



ステージに見立てて歌を歌う子ども達



家に見立ててのごっこ遊び

- ☆ 体を動かすことが大好きな子ども達、楽しいことができる保育園が大好きです。
- ☆ みんなで成長を見守り、できたことを喜び合える子ども達です。
- ☆ できた喜び・楽しい経験・がんばったことは心の栄養になっています。
- ☆ 運動用具も色々な遊び方ができることを教えてもらいました。
- ☆ 見て・真似て・やってみる気持ちが育っています。
- ☆ 小さな子を思いやる気持ち、痛い思いをしている子に「大丈夫？」と優しい気持ちがいっぱいです。
- ☆ 遊びの中、周りの状況に気付き「どいて」「順番」と声をかけて安全な遊び方に気づいてきました。(2歳児)



組み替えジム・フワフワマットを利用し、誕生会に「3匹のやぎのがらがらどん」のペープサートを行いました。

4、今後の課題と展望

子ども達は、色々なことに興味・関心を持ち、日々を楽しく生活しています。身体を動かすことも好きでサーキットはもちろん散歩先で走ったり・サッカー・なわとびなども行い健康に過せていると思います。今後は個々の発達をより理解し、弱い部分の発達を促す遊びの提案など、職員間で話し合い実施していきたいと考えています。また自然の中で伸び伸びと遊び、主体的に色々なことに関われる環境を考えていきたいと思っています。

以上